

平成 29 年 5 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370857

研究課題名(和文) 中・近世のアルプス諸地域におけるローカル・コミュニティと国家の比較研究

研究課題名(英文) Comparative study of the local community and the state in medieval and early modern alpine regions

研究代表者

服部 良久 (Hattori, Yoshihisa)

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：80122365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：アルプス諸地方の中近世史を特徴付ける渓谷を枠組みとした共同体は武装能力と自治において際立ち、アクティブな政治主体でもあった。本研究はそうした共同体の政治的行為能力の基盤が共同体相互のコミュニケーションと結合・連合であったことを重視した。そのうえでティロル、スイス南部、ロンバルディア北部、西部のローヌアルプのアルプス諸地域における歴史的条件の相違、領邦ティロル、都市国家ミラノ、スイス盟約者団、サヴォア公領など、各地域の政治構造の多様性をふまえ、地域共同体の実態と、当該地域の政治権力との間の相互関係を明らかにし、各々の地域における中世後期から近世にかけての国家統合のダイナミズムを比較考察した。

研究成果の概要(英文)：Alpine regions during the 14th - 16th century show us interesting process of the interaction between local communities and growing state power, specifically where local communities cooperated with each other by organizing an alliance or a durable confederation. I have comparatively elucidated the social and political structures of the alpine regions from the viewpoint of interactive communication among communities and ruling powers, dividing into three regions, as follows.

Western Alps: Savoy including Aosta, where the local communities were controlled by the growing monarchical power in the late Middle Ages. Central Alps: Swiss Confederacy as well as Grisons, where federative cooperation among communities enjoyed essential influence on the region's political structure. Eastern Alps: Tyrol, Salzburg, and Vorarlberg, where the close relationship and communication between the monarchical government and the local communities secured the autonomy and political activity of the latter.

研究分野：西洋中世史

キーワード：アルプス 共同体 国家 コミュニケーション 連合 中近世 紛争 インタラクション

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパでは 1990 年代に近代国家生成の研究プロジェクトが、社会的抵抗と代表制、財政、イデオロギー、戦争など多様な視点から豊かな研究成果を生み出し、2009 年に刊行された *Empowering Interactions. Political Cultures and the Emergence of the State in Europe 1300-1900*, Blockmanns, W. et al.(eds.)は、社会の側から、或いは国家と社会の相互関係のなかで近代国家が成立する様々なプロセスをヨーロッパ全域について明らかにした。日本では一部の若手研究者がドイツ領邦の臣民請願と政府の立法(規律化)の相互関係について研究を始めているが、国家形成を社会的過程とのインタラクションにおいて明らかにする研究は、なお限定的な事例研究にとどまっている。こうした研究動向をふまえるなら、絶対主義国家を社團の緩やかな統合体として再定義してきた従来の近世史研究はなお不十分であり、君主政府と臣民の諸団体、ローカル・コミュニティとの間の相互関係の動態、換言すればコミュニケーションが生み出す国家統合へのダイナミズムを明らかにする研究が必要であるとの認識を持った。

2. 研究の目的

中・近世のアルプス地方における、村落や渓谷を枠組みとした共同体(ローカル・コミュニティ)は、平野部の農村に比して自治や武装能力において際立ち、政治的にもアクティブな行為主体として現れる。本研究はそうした共同体の行為能力を高めた要因のひとつが、共同体相互のコミュニケーションと結合・連合であったことに着目し、アルプス諸地域のローカル・コミュニティとその相互関係、そしてそれらと当該地域の国家的権力との間の、独特のインタラクティブな関係を明らかにし、各々の地域における中世後期から近世にかけての国家統合のダイナミズムを比較考察する。この点を念頭に置いて、アル

プス西南部のサヴォア、ドーフィネから、スイス、ティロル、その南側、ロンバルディア北部の山岳渓谷地方に至る諸地域の、共同体の構造と機能、相互関係を明らかにすることが第一の課題である。さらにそうしたローカル・コミュニティとそれら相互間のコミュニケーション、結合の実態、機能、自律性とそれを担保するファクター(在地領主との関係、共同体住民の国家への軍事奉仕、国家の境界防衛、治安維持のための役割、地政的条件など)をふまえて、国家との相互関係を明らかにすること、またそうした共同体の機能、一定の自律性を前提とした君主政府との相互関係が、当該地域における近世的な国家体制への移行において、どのように変化したのかを考察することが第二の課題である。

3. 研究の方法

研究文献と刊行史料の分析、文書館の未刊行史料調査、国内外、アルプス各地域の専門研究者との交流によって課題の遂行をめざす。ティロル北部についてはすでにインスブルックの文書館における共同体文書(Gemeindearchiv)の調査実績があり、さらにスイスのグラウビュンデン(クール)の国立文書館調査、フランスのサヴォワ県立文書館(シャンベリ)の文書調査により、各地域のローカル・コミュニティの特質と支配権力、国家との相互関係を明らかにする。こうした文書館調査、諸地域の地理的環境を把握するための現地調査と併せて、インスブルック、ボルツァーノ(文書館)、ミラノ、ベルン等において、大学の関係研究者と意見交換を行い、新しい情報の獲得に努め、また研究進捗を図るために助言を得る。またアルプス地域の研究者とのワークショップを行う。

4. 研究成果

26 年度は今日のアルプス史研究の第一人者であるルツェルン大学教授のヨン・マテューと面談して近年のアルプス史研究動向、本研

究課題の意図、問題点について意見交換し、スイス史の立場からのアルプス史の研究課題を確認した。またトレントのイタリア・ドイツ史研究所刊行の論文集『中世後期・近世のアルプスにおける共同体と紛争』に「中世後期のアルプス諸地域における共同体、コミュニケーションと政治的統合 - 比較史的視点からの概観 - 」を寄稿し、研究課題・目的に挙げたアルプス諸地域、すなわち東部（ティロル、ザルツブルク、フォアアルルベルク）、中央部（スイス、グラウビュンデン）、南部（ロンバルディア北部渓谷）、西部（サヴォワ）の共同体間連合の展開について比較考察し、政治権力との関係を明らかにした。27年度にはこの論文集が刊行され、拙論に基づいて国内外の研究者と意見交換した。7月にはヨン・マテュー教授を招き、京都大学において、「アルプス史研究会」を中心に日欧の山・海と人の移動と交流に関するワークショップを行い、平地社会のみならず山岳地域を視野に入れた歴史学の可能性について有益な議論を行った。12月には甲南大学の佐藤公美准教授の企画するシンポジウム「アルプスからのインターローカル・ヒストリー」のゲスト・スピーカー、ミラノ・ピッコカ大学のミセリコルディア氏の招聘に協力し、コメンテーターとして、本研究課題と重なるところの大きいこのシンポジウムをサポートした。28年1月にはスイス＝イタリア大学（スイス・メンドリジオ）のアルプス史研究室主催のワークショップに招聘され、ティロルの共同体と紛争解決、コミュニケーションに関する報告を行った。最終年度の28年度には西アルプスのサヴォワの文書館調査を行い、3年間でアルプスの東西南の史料調査・現地調査により、発達した領域国家と共同体の密なコミュニケーションの下に共同体の自治と政治的能動性が顕著となるアルプス東部、共同体の自律性に基づく連合・同盟の形成が連邦的国制に連なるアルプス中央部・南部、領

域国家の権力が相対的に強く、共同体の自治と連合が脆弱なアルプス西部、という国家と共同体の関係の見取り図を、実証的にも明らかにできた。またとりわけアルプス南部、ロンバルディア北部渓谷地域は、北部のスイス盟約者団、南部のミラノ国家（ヴィスコンティ・スフォルツァ家支配下）、東部のハプスブルク家という諸権力の境界地域であり、ここではローカルな地域・共同体の紛争や同盟が、そうした政治権力間のコミュニケーション（紛争・紛争解決・同盟など）とも密接に相互関連、連動していることをも明らかにした。このように、イギリス、フランスなど平地社会を中心とした絶対主義国家（或いは社団国家）とは異なる近世国家の生成・変容を地域から考える視点が得られたことは有益である。今後はローカル・コミュニティを広域的に結びつける各地域のエリートたちの実態と移動・交流のレベルまで考察の目線を下げるのが課題となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Yoshihisa Hattori, Gemeine Ressourcen, Arbeit und Kommunikation im Oberinntal in Spätmittelalter und Früher Neuzeit, Histoire des Alpes - Storia delle Alpi - Geschichte der Alpen, 査読有, vol. 22, 2017 (印刷中)

服部良久, 12世紀ヨーロッパの政治秩序をめぐって - コミュニケーションからのアプローチ -、日本歴史学協会会報、査読なし、32巻、2017年、7-17.

〔学会発表〕(計 4 件)

服部良久, 12世紀ドイツの移動国王宮廷と政治的コミュニケーション - 西部境界地域を中心に -、国境を越える歴史学、2016年11月26日、愛知大学人文社会学研究所、愛知県豊橋市田端町

服部良久, 12世紀ヨーロッパの政治秩序を巡って - 政治的コミュニケーションからのアプローチ -、日本歴史学協会総会、2016年7月30日、京都大学文学部、京都市左京区吉田本町

Yoshihisa Hattori, Ressourcen, Arbeit und Kommunikation im Oberinntal in Spätmittelalter und Früher Neuzeit, Fare

reddito e fare impresa nelle società preindustriali, 2016 年 1 月 21 日、Laboratorio di Storia delle Alpi, Università della Svizzera Italiana, Mendrisio, Switzerland.

服部良久、Political Communication in the Boundary of the Alpine Region - Local Communities and State - , アルプスからのインターローカル・ヒストリー <地域> から<間地域>へ、2015 年 12 月 20 日、甲南大学、神戸市東灘区岡本 8-9-1.

〔図書〕(計 4 件)

Roberto Leggero(ed.), Mendrisio Academy Press, Fare reddito e fare impresa nelle società preindustriali, 共著(執筆担当章 Yoshihisa Hattori, Collective resources, work, and communication in the Tyrolean Upper Inn Valley in the Late Middle Ages and Early Modern Times), 2017.(印刷中)

朝治啓三、渡辺節夫、加藤玄編著、ミネルヴァ書房、<帝国>で読み解く中世ヨーロッパ英独仏関係史から考える、2017、350(共著担当執筆:服部良久、皇帝フリードリヒ1世・バルバロッサ時代の「独仏関係」、217-239)

服部良久他(共著)、愛知大学人文社会学研究所、国境を越える歴史学、2017 (印刷中)

佐藤公美編、佐藤公美研究室(甲南大学)、アルプスからのインターローカル・ヒストリー、2016、140 (共著 担当執筆 Yoshihisa Hattori, Political Communication in the Boundary of the Alpine Regions Local Communities and State -, 101-107)

Marco Bellabarba, Hannes Obermair, Hitomi Sato (eds.), Mulino, Duncker & Humblot, Communities and Conflicts in the Alps from the Late Middle Ages to Early Modernity, 2015, 251 (共著 執筆担当 Yoshihisa Hattori, Community, Communication, and Political Integration in the Late Medieval Alpine Regions. Survey from a Comparative Viewpoint, 13-38)

服部良久編著、ミネルヴァ書房、『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史 紛争と秩序のタペストリー』、2015、539 (執筆担当

1-12、14-39)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等
なし
6. 研究組織

(1)研究代表者
服部 良久(HATTORI, Yoshihisa) 京都大学大学院・文学研究科・名誉教授
研究者番号 80122365

(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし
(4)研究協力者
なし()